

令和3年決算特別委員会（知事総括）開催状況

開催年月日 令和3年11月12日（金）
 質疑者 日本共産党 宮川 潤 委員
 答弁者 知事 鈴木 直道

| 質 疑 要 旨 | 答 弁 要 旨 |
|--|--|
| <p>二 気候変動対策について 次に気候変動対策についてであります。</p> <p>（一）CO2削減目標について 本道の二酸化炭素削減目標は、2013年度比35%減であり、国は46%減から、さらに検討を進めています。「世界的な気候変動問題の解決に地域から貢献する」との答弁がありましたけれども、国よりも高い二酸化炭素削減目標を掲げる考えがあると受け止めてよろしいですか。伺います。</p> <p>【再質】 上積み可能な分野とされましたけれども、どの分野でどの程度上積みするかということではなくて、今求められていることは、本道の二酸化炭素削減量全体として増やすという政治的な決断であります。政治家としての決意を道民にはっきりお示しください。</p> <p>（二）COP26について 現在行われているCOP26で協議され、出されている方向を知事は尊重するお考えはありますか。</p> <p>（四）温室効果ガス削減の取組について 北海道全体次世代自動車の導入率ということですが、11.7%であるそうです。道公用車の導入率が8.1%と道全体よりも低いことについての見解を伺います。 公用車の次世代化以外にも、温室効果ガスの削減を道が先進的に取り組む意思があるかお示しをください。</p> <p style="margin-top: 20px;">道庁が道全体の足を引っ張っているという現状を認識していただきたいと思えます。</p> | <p>（知事） 削減目標についてであります。国では、先月22日新たな削減目標の達成に向けた「地球温暖化対策計画」が策定をされたところでございます。 道としては、この中で示された排出部門ごとの削減の考え方や目標達成に向けた対策や施策なども踏まえ、道の削減目標を含めた計画の見直しについて環境審議会に諮問をしたところでありまして、さらなる上積みが可能な分野とその目標値や達成に向けた方策などの検討を行い、年度内を目途に、計画の改定を進めてまいります。</p> <p>（知事） 削減目標についてでありますけれども、上積みが可能な分野とその目標などの検討を、今、行っているところでございまして、年度内を目途に、計画の改定を進めていきます。</p> <p>（知事） 気候変動対策の国際会議でございますが、先月31日から開催されているCOP26は、2015年に採択された「パリ協定」を踏まえ、今後の世界の気候変動対策推進に向けた各国の削減目標や取組などの重要な議論がなされております。その内容や今後の我が国の対応などを注視していく必要があると考えています。</p> <p>（知事） 削減の取組であります。道では、令和3年度の「環境物品等調達方針」において公用車は、「次世代自動車」を基本に、可能な限り、電気自動車やハイブリッド自動車などの「電動車等」の導入を進めることとしております。今後とも導入率の一層の向上が図られるよう努めてまいります。 また、公用車のほか、自らの事務や事業に関して、再生可能エネルギー由来の電力の調達や太陽光発電設備の導入などの検討を進めるなど、ゼロカーボン北海道の実現に向け、積極的に取り組んでまいります。</p> |